

市民団体

キララちゃんバスを検証

市、NPOなどと意見交換

土浦市活性化バス「キララちゃんバス」の利用について、「バリアフリー新法に基づく基本構想の策定を實現させる会」は8日まで

に、バス運営主体のNPOまちづくり活性化土浦、市都市計画課、車いす利用者などと共同で、同バス(ジャンボタクシー)の検証と

意見交換会を行った。同實現させる会は、市民

会館循環の同バス(ジャンボタクシー)について、「車いす利用者が乗ろうとしたが、構造上乗れなかった」ことから、バリアフリーの接遇研修の徹底▽大きな荷物などが置けるような座席の空きスペースの確保

などを求める要請書を市へ提出。これを受けて、今回、共同で検証を實施した。

土浦市中央の商工会議所で行われた意見交換会では、同会から、交通事業者向けのバリアフリー教育訓練プログラムなどが提案され、その後、参加者約20人で同バスの検証を行った。

市都市計画課では「意見を交換することによって、バリアフリーの考え方が理解し合える」などと話している。

同バスは、市、交通事業者(関東鉄道、土浦地区タクシー協同組合、同NPOが協定を結び、市内を中心に路線バスが走っていない地域3ルートで循環運行している。(齋藤智子)

キララバス 土浦市、議会で陳謝

乗車拒否

る車両の購入を市などに要請した。

土浦市とNPO法人、バス・タクシース社などで運行するまちづくり活性化バス「キララちゃん」に先月、車いすの高齢者が乗車拒否された問題で、運行にかかわる市産業部の増佳樹部長と公共交通などのバリアフリー化を進める市都市整備部の東郷和男部長が14日、市議会本会議で、

「当事者、関係者」に迷惑と心配をお掛けし、おわび申し上げる」などと陳謝した。この問題は、先月16日に同市在住の車いす利用の男性(96)が、市内で買い物をした後帰宅するため土浦駅西口から同バス(10人乗りジャンボタクシー)に乗ろうとしたところ、

「何かあるといけない

常陽新聞



キララちゃんバス(ジャンボタクシー)の検証を実施する参加者ら=土浦市中央の商工会議所駐車場